

## 令和2年度業務実績に関する暫定評価（案）の概要

## 1 業務実績（税込）

- ・新型コロナウイルスの影響による不急な手術の延期や患者の受診控え等により、上半期の実績では、患者数が対前年比▲10%程度減少。
- ・下半期は引き続き影響が続くものの、延期した手術の一部実施や季節性疾患の増による患者数の増加や、新型コロナウイルス関連補助金（空床補償等）の交付を見込む。
- ・令和2年度の年間経常収支は、法人移行後、初の赤字を見込む。（単位：百万円）

区 分	R元年度（実績）A	R2年度（見込）B	B - A
経常収益	47,722	47,747	25
医業収益	39,778	38,227	▲1,551
経常費用	47,291	48,418	1,127
医業費用	46,301	47,389	1,088
経常収支	431	▲671	▲1,102
経常収支比率	100.9%	98.6%	▲2.3
当期純損益	302	▲911	▲1,213

## 2 機構の業務実績・自己評価（※新型コロナウイルスの影響を受けた項目）

（1）機構自己評価（機構が令和2年度行動計画として設定した全119項目に対する評価※R2上半期時点実績）

区 分	R元暫定	R元本	R2暫定	備 考
S：計画に対し十分に取り組み、顕著な成果が得られている	2	3	9	【5】チーム医療の推進、【6】院内感染防止対策等の実施 【15】感染症医療、【23】移行期医療、【24】施設整備、 【31】外来化学療法、【32】緩和ケア、 【77】研究支援体制の充実、【101】災害時医療救護（心）
A：計画に対し十分に取り組み、成果が得られている	109	104	81	
B：計画に対し十分に取り組んでいる	7	13	22	【10・11】紹介率・逆紹介率（心、子）、 【17】リハビリテーション（心）、【20】認知症対策（総）、 【25・40・50】入院患者数・外来患者数（3病院）、 【36】手術件数（総）、【39・60】病床稼働率（総、子）、 【51】心臓カテーテル治療（子）、【53】小児がん登録件数（子）、 【54】小児救命救急（子）、【56】こころの診療科（子）、 【61】医師数・看護師数、【67】ラーニングセンター（子）、 【70】実習等の受入れ、【88】拡大がんセンターボード、 【94】学会等への参加、【96】公開講座数、 【103】災害救護訓練、【119】経営状況
C：計画に対する取組みは十分ではない	0	0	0	
未評価 （データ集計中、新型コロナウイルス影響による開催中止等）	2	0	7	【8】患者満足度調査、【55】メディカルコントロール協議会 （子）、【65】海外研修、【68】海外視察の受入れ、 【95】資格取得支援、【97】県民向けイベントの開催、 【113】業務改善運動推進制度
計	120	120	119	

(2) 令和2年度数値目標の達成状況（機構が中期計画・令和2年度計画において指標設定）

区分	R元暫定	R元本	R2暫定	備考
目標達成	19	16	11	
目標未達成 ※新型コロナウイルスの影響を受けた項目	5	10	13	【10・11】紹介率・逆紹介率(心、子)、【25・40・50】入院患者数・外来患者数(3病院)、【36】手術件数(総)、【39・60】病床稼働率(総、子)、【51】心臓カテーテル治療(子)、【53】小児がん登録件数(子)、【61】医師数・看護師数、【96】公開講座数、【119】経営状況
未評価 (データ集計中)	2	0	2	【8】患者満足度調査、【113】業務改善運動推進制度
計	26	26	26	

3 県評価（全119項目のうち、県が数値目標項目など67項目を「重点項目」として設定）

区分	R元暫定	R元本	R2暫定	備考
☆：良好で特に着目する状況	9	10	8	内訳は「4 項目別業務実績評価抜粋」に記載
○：良好な状況	56	58	52	
△：より一層の取組を期待	1	2	5	内訳は「4 項目別業務実績評価抜粋」に記載
▼：取組改善を強く要望	0	0	0	
未評価	2	0	2	【8】患者満足度調査、【113】業務改善運動推進制度
計	68	70	67	

4 項目別業務実績評価抜粋（県評価のうち☆及び△の項目を抽出）

No.	内容	県評価	
		機構評価	県評価
31	がん化学療法の充実	☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来化学療法件数は高水準を維持 (R元暫定6,298件→R2暫定6,439件)</li> <li>・外来化学療法センターのリニューアルにより患者の利便性向上に寄与</li> </ul>
		S	
32	緩和ケアの推進	☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア診療加算は高水準を維持 (R元暫定2,345件→R2暫定2,500件)</li> <li>・就労支援相談窓口の設置により患者の社会復帰支援を強化</li> </ul>
		S	
5	チーム医療の推進	☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス患者の受入れ対応のため、院内感染対策チームを創設</li> </ul>
		S	
15	感染症医療	☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>【新型コロナウイルスへの対策】</li> <li>・3病院における病床の確保(総合18床、こころ4床、こども4床)</li> <li>・総合病院の専門病棟の整備等、県内医療提供体制確保への貢献</li> <li>【結核への対策】</li> <li>・総合病院においては県内最大規模の結核病床(50床)を維持し、県全体の結核対策に貢献</li> </ul>
		S	

No.	内 容	県評価	
		機構評価	県評価
23	移行期医療	☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県からの委託を受け、こども病院において<b>移行期医療支援センターを開所</b></li> <li>・患者の医療移行や自立支援の推進における中心的役割を期待</li> </ul>
		S	
24	施設や設備等の充実	☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工呼吸器等の機器購入など、<b>新型コロナウイルス患者受入れのための設備整備</b>により、県内医療提供体制確保へ貢献</li> <li>・医療情報の共有化による、質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指し、<b>3病院共通のサーバ室整備</b>に着手</li> </ul>
		S	
77	リサーチサポートセンターにおける研究体制	☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・免疫研究部長の関わる研究論文が英科学誌「Nature」へ掲載</li> <li>・慶應義塾大学大学院医学研究科との連携・協力協定に基づく、<b>人的交流の令和3年度開始に向けた調整</b></li> </ul>
		S	
101	こころ災害時医療救護活動拠点としての体制整備と取組の充実	☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年2月に<b>災害拠点精神科病院の指定</b></li> <li>・東部地区の病院へ<b>DPA T</b>を派遣し、感染対策に係る活動を実施</li> </ul>
		S	
39 60	病床稼働率 (総合・こども)	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響により、病床稼働率は<b>中期目標で示した目標値未達成</b>であるため、今後の取組を注視  総合病院 目標値 90%→実績 82.1% (R2 上半期時点)  こども病院 目標値 75%→実績 63.5% (R2 上半期時点)</li> <li>※(参考) 空床確保した病床抜きの病床稼働率  総合病院 目標値 90%→実績 86.4% (R2 上半期時点)  こども病院 目標値 75%→実績 64.5% (R2 上半期時点)</li> </ul>
		B	
17	こころリハビリテーション件数の減	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染対策として、動画配信やリモートによるデイケアプログラムの実施</li> <li>・<b>デイケアの新規利用者増加や訪問看護の拡充に向けた取組</b>を注視</li> </ul>
		B	
67	こども本館リニューアル工事によるラーニングセンターの使用休止	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設改修計画と整合を図りつつも、<b>院内研修のセンター集約</b>により研修環境を改善する運営検討部会の方向性を継続できるよう、運用・検討を要望</li> </ul>
		B	
119	経常収支比率 98.6%の見込	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術の延期や受診控え等による医業収益の減少により、<b>法人移行後初の赤字見込</b></li> <li>・令和2年度は新型コロナウイルスの影響もあり、収支悪化はやむを得ないが、引き続き収益確保及び費用の節減、業務改善・効率化等の取組を注視</li> </ul>
		B	